

内水ハザードマップに関するQ&A

Q1 内水ハザードマップとは何ですか？

内水ハザードマップは、下水道や水路の排水能力を超える大雨によって内水氾濫が発生した場合に想定される浸水の範囲や深さ、避難場所などを地図上で分かりやすく示したものです。また、日頃からの自助・共助の意識向上などに役立ててもらうことを目的としています。

Q2 なぜ内水ハザードマップが必要なのですか？

近年、気候変動の影響により短時間に大量の雨が降ることが増えています。このような大雨では、下水道や排水路などの排水能力を超えてしまい、河川が氾濫しなくても住宅地や道路などが浸水する内水氾濫が発生します。こうした内水氾濫による浸水の危険性がある区域や深さ、避難場所などを知っていただき、いざという時に早めの避難や適切な防災行動をとるために必要となります。

Q3 想定最大規模降雨（130mm/h）とは何ですか？

浸水範囲をシミュレーションするために設定している、想定し得る最大規模の時間当たりの降雨量です。これまで市で観測された最大の時間雨量は75mm/hであり、内水ハザードマップで想定している雨量130mm/hはその約1.7倍にあたります。

Q4 浸水のシミュレーションはどのように行ったのですか？

下水道の整備状況や主要な水路（内径600mm以上）を勘案して、想定最大規模の雨が降った場合の浸水の範囲や深さを示しています。なお、このシミュレーションでは、国土地理院の5mメッシュデータを用いて地形や地盤高を設定していますが、実際の地形とは異なる場合があります。浸水状況が変わる可能性がありますのでご注意ください。

Q5 内水（氾濫）と外水（氾濫）の違いは？

内水氾濫は下水道や水路の排水能力を超える雨が降った場合に、水が地上にあふれだし溜まったままになることです。外水氾濫とは、大雨により河川の水かさが増え、河川の堤防から越水したり、堤防が決壊して浸水が発生することです。

Q6 洪水ハザードマップと内水ハザードマップの違いは？

洪水ハザードマップは、河川で外水氾濫（洪水）が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深を示しています。内水ハザードマップでは水路などから水があふれだす内水氾濫を想定しており、河川氾濫（洪水）は考慮していないので洪水ハザードマップも併せてご確認ください。

	洪水ハザードマップ	内水ハザードマップ
氾濫の種類	外水氾濫	内水氾濫
雨の範囲	広い	狭い（局地的）
雨の時間	長い（533mm/48時間）	短い（130mm/1時間）
主な原因	台風・前線	積乱雲・ゲリラ豪雨
被害範囲	河川沿い全体	都市の一部・低地

Q7 令和3年の内水ハザードマップとの違いはなんですか？

令和3年に作成した内水ハザードマップでは、市がこれまでに観測した最大の時間雨量（既往最大降雨量75mm/h）で想定される浸水範囲となっていましたが、近年の気候変動に対応するため水防法が改正され、想定し得る最大規模の時間雨量（想定最大規模降雨130mm/h）に対応する内水ハザードマップの公表が定められていることから令和8年に新たに作成しました。